

## 戦後の「マンガ言説」とその周辺

- 1946 国語審議会、戦後初の常用漢字を「当用漢字」として告示。『思想の科学』創刊。『世界』創刊。『リーダーズ・ダイジェスト』創刊。『宝石』創刊。『少年鉄楽部』、『少年クラブ』に改称。『少女鉄楽部』、『少女クラブ』に改称。
- 1947 『漫画少年』創刊。手塚治虫『新宝島』刊行。
- 1948 『美術手帖』創刊。『少年活劇文庫』（『少年画報』の前身）創刊。
- 1949 『冒険王』創刊。『スーパーマン』（コミックス社版）創刊。
- 1950 『芸術新潮』創刊。『キネマ旬報』復刊。手塚治虫『漫画大学』刊行。
- 1951 『少女ブック』創刊。
- 1953 NHK、テレビ放送開始。
- 1954 『漫画讀本』創刊。伊藤逸平『世界の漫画』刊行。『なかよし』創刊。須山計一『世界の漫画 あふれ・につぼん』刊行。
- 1955 「文春漫画賞」設立。「小学館漫画賞」設立。PTAなどによる悪書追放運動開始。『りぼん』創刊。
- 1956 ドラマ版『スーパーマン』放映。『週刊新潮』創刊。『エラリー・クイーンズ・ミステリマガジン』（現ミステリマガジン）創刊。『ユリイカ』創刊。伊藤逸平『日本の漫画家』刊行。須山計一『漫画の歴史』、『漫画100年』刊行。
- 1957 「劇画工房」設立。
- 1958 ホグベン『コミュニケーションの歴史』（『洞窟絵画から連載漫画へ』）刊行。
- 1959 『週刊少年マガジン』創刊。『週刊少年サンデー』創刊。『月刊スーパーマン』（少年画報社版）創刊。『週刊現代』創刊。『週刊文春』創刊。『朝日ジャーナル』創刊。伊藤逸平『現代の漫画』刊行。
- 1960 『ディズニーの国』創刊。須山計一『日本の戯画』刊行。
- 1961 滑川道夫『マンガと子ども』刊行。
- 1962 「世界の漫画展」開催。『少女フレンド』創刊。中原佑介『ナンセンスの美学』刊行。
- 1963 自主規制団体、「出版倫理協議会」設立。テレビアニメ『鉄腕アトム』放送開始。『メンズクラブ』創刊。『ボーイズライフ』創刊。『太陽』創刊。『マーガレット』創刊。
- 1964 「日本漫画家協会」設立。『ガロ』創刊。『平凡パンチ』創刊。
- 1965 石森章太郎『マンガ家入門』刊行。作田啓一、多田道太郎、津金沢聡広『マンガの主人公』刊行。
- 1966 テレビドラマ『怪鳥人間バットマン』放映。『週刊プレイボーイ』創刊。
- 1967 『週刊漫画アクション』創刊。COM』創刊。『漫画主義』創刊。石子順造『マンガ芸術論』刊行。草森紳一『マンガ考』刊行。鶴見俊輔『限界芸術論』刊行。藤川治水『子ども漫画論』刊行。マーシャル・マクルーハン『人間拡張の原理——メディアの理解』（『メディア論』）刊行。横山隆一『フクちゃん随筆』刊行。
- 1968 「日本漫画家協会第一回展 漫画100年展」開催。『ビッグコミック』創刊。『週刊少年ジ

キャンプ』創刊。『週刊セブンティーン』創刊。須山計一『日本漫画』刊行。辰巳ヨシヒロ『劇画大学』刊行。副田義也『魅惑の少年マンガ』刊行。星新一『進化した猿たち』、『新・進化した猿たち』刊行。

1969 『PEANUTS BOOKS』（ツルコミックス版）刊行開始。『週刊ポスト』創刊。『ミュージック・マガジン』創刊。『月刊ホビージャパン』創刊。漫画主義同人『現代漫画論集』刊行。加太こうじ『街の芸術論』刊行。手塚治虫『ぼくはマンガ家』刊行。

1970 筑摩書房『現代漫画』全7巻刊行開始。an-an』創刊。石子順造『現代マンガの思想』刊行。峯島正行『現代漫画の50年』刊行。藤島宇策『マンガ亡国』刊行。マシュー・ホジャー『諷刺の芸術』刊行。

1971 『non-no』創刊。『テレビマガジン』創刊。草森紳一『マンガ・エロチシズム考』刊行。藤島宇策『現代マンガ指導入門』刊行。

1972 『ロッキング・オン』創刊。植草甚一『ぼくがすきな外国の変った漫画家たち』刊行。須山計一『漫画博物誌 世界編』、『漫画博物誌 日本編』刊行。尾崎秀樹『現代漫画の原点』刊行。

1973 『WonderLand』（『宝島』の前身）刊行。『テレビランド』創刊。石子順造、菊池浅次郎、権藤晋『劇画の思想』刊行。斎藤次郎『共犯の回路 ロ×劇画・可能性のコミュニケーション』刊行。佐藤忠男『日本の漫画』刊行。鶴見俊輔『漫画の戦後思想』刊行。

1974 サンリオ、ハローキティグッズの販売を開始。『ビックリハウス』創刊。『漫画界』（ばふの前身）創刊。小野耕世『バットマンになりたい』刊行。

1975 第一回コミックマーケット開催。石子順造『戦後マンガ史ノート』刊行。副田義也『現代マンガ論』刊行。

1976 『ポパイ』創刊。『スタジオボイス』創刊。『てれびくん』創刊。石子順『子どものマンガをどうする』刊行。

1977 「講談社漫画賞」設立。『少年キング』で藤子不二雄『まんが道』連載開始。『月刊アスキー』創刊。『コロコロコミック』創刊。『ちゃお』創刊。0777創刊。『手塚治虫漫画全集』刊行開始。

1978 「読売国際漫画大賞」設立。『月刊スーパーマン』（マーベリック社版）創刊。「光文社のマーベルコミックス」刊行。『スターログ』（ツルモトルーム版）創刊。『アニメージュ』創刊。『COMIC JUN』（『JUNE』の前身）創刊。飯沢匡『現代漫画家列伝』刊行。石子順『新マンガ学』刊行。尾崎秀樹『漫画のある部屋』刊行。桜井昌一『ぼくは劇画の仕掛人だった』刊行。清水勲『明治の諷刺画家・ビゴー』刊行。

1979 映画『スーパーマン』日本公開。『広告批評』創刊。小野耕世『スーパーマンが飛んだ』刊行。井純『戦後の貸本文化』刊行。斎藤次郎『子ども漫画の世界』刊行。石子順『日本漫画史』刊行。ラッセル・ナイ『アメリカ大衆芸術物語』刊行。橋本治『花咲く乙女たちのキンピラゴボウ』上刊行。藤島宇策『マンガ亡国』刊行。松沢光雄『日本人の頭脳をダメにした漫画・劇画』刊行。村上知彦『黄昏通信』刊行。

1980 『ブルータス』創刊。『宇宙船』創刊。『ポップコーン』創刊。『ヤングマガジン』創刊。片寄みつぐ『戦後漫画思想史』刊行。亀和田武、有川優、飯田耕一郎『マンガは世界三段跳び』刊行。米沢嘉

博『戦後少女マンガ史』、『戦後SFマンガ史』刊行。

1981 『コミックボンボン』創刊。

1983 任天堂「ファミリーコンピュータ」発売。副田義也『マンガ文化』刊行。

1984 藤島宇策『たかがマンガされどマンガ』刊行。

1981 橋本治『花咲く乙女たちのキンピラゴボウ』下刊行。米沢嘉博『戦後ギャグマンガ史』刊行。

1982 橋本治『熱血シュークリーム』上（下未刊）刊行。

1983 小野耕世『ドナルド・ダックの世界像』刊行。山根貞男『手塚治虫とつげ義春 現代漫画の出発点』刊行。

1984 鶴見俊輔『戦後日本の大衆文化史』刊行。峯島正行『近藤日出造の世界』刊行。吉本隆明『マス・イメージ論』刊行。

1985 『SWITCH』創刊。夏目房之介『夏目房之介の漫画学』刊行。

1986 『ファミコン通信』（現『ファミ通』）創刊。清水勲編『漫画雑誌博物館』全12巻刊行開始。呉智英『現代マンガの全体像』刊行。中島梓『マンガ青春記』刊行。

1987 『Esquire』創刊。大塚英志『「まんが」の構造』刊行。鶴見俊輔、河合準雄、作田啓一、多田道太郎、津金沢聡広『昭和マンガのヒーローたち』刊行。高取英、村上知彦、米沢嘉博『マンガ伝』刊行。米沢嘉博編『マンガ批評宣言』刊行。大城宜武『漫画の文化記号論』刊行。

1988 『マンガ スーパーテクニク講座』（コミッカーズの前身）刊行。

1989 手塚治虫逝去。村上知彦、竹内オサム編『マンガ批評体系』全4巻+別巻1刊行。大塚英志『物語消費論』刊行。竹内オサム『マンガと児童文学の〈あいだ〉』刊行。

1990 東京国立近代美術館にて『手塚治虫展』開催。山口昌男『のらくろはわれらの同時代人』刊行。

1991 清水勲『漫画の歴史』刊行。関川夏央『知識的大衆諸君、これもマンガだ』刊行。田河水泡『のらくろ一代記』刊行。水野良太郎『漫画文化の内幕』刊行。

1992 Windows3.1発売。東京サザエさん学会『磯野家の謎』刊行。香山リカ、高山宏、松岡正剛他『コミックメディア—柔らかい情報装置としてのマンガ』刊行。石子順『手塚治虫 漫画の奥義』刊行。夏目房之介『手塚治虫はどこにいる』刊行。福島章『マンガと日本人』刊行。

1993 梶井純『トキワ荘の時代』刊行。

1994 荒俣宏『漫画と人生』刊行。大塚英志『戦後まんがの表現空間』刊行（サントリー学芸賞受賞）。ジャクリヌ・ベルント『マンガの国ニッポン』刊行。西村繁男『さらば、わが青春の『少年ジャンプ』』刊行。荷宮和子『少女マンガの愛のゆくえ』刊行。四方田犬彦『マンガ原論』刊行。

1995 別冊宝島EX『マンガの読み方』刊行。岡田斗司夫『ぼくたちの洗脳社会』刊行。いしかわじゅん『漫画の時間』刊行。奥田鉄人『鉄腕マンガ論』刊行。竹内オサム『戦後マンガ50年史』刊行。夏目房之介『手塚治虫の冒険』刊行。荷宮和子『おたく少女の経済学』刊行。

1996 『BSマンガ夜話』開始。「アメリカンコミックス100年展」開催。『アメイジング・キャラクターズ』Vol.1刊行。大泉実成『消えたマンガ家』刊行。岡田斗司夫『オタク学入門』刊行。岡田斗

司夫『東大オタク学講座』刊行。

1997 第一回「メディア芸術祭」開催。「手塚治虫文化賞」設立。夏目房之介『マンガと戦争』、『マンガはなぜ面白いのか—その表現と文法』刊行。

1998 内田勝『「奇」の発想—みんな『少年マガジン』が教えてくれた』刊行。スコット・マクラウド『マンガ学』刊行。呉智英『マンガ狂につける薬』刊行。斎藤美奈子『紅一点論』刊行。フレデリック・ショット『ニッポンマンガ論』刊行。藤本由香里『私の居場所はどこにあるの?』刊行。

1999 小学館、コンビニ向けコミックスレーベル「My First Big」開始。梶井純『執れ、膺懲の銃とペン』刊行。唐沢俊一『B級学 マンガ編』刊行。清水勲『図説 漫画の歴史』刊行。

2000 京都精華大学、芸術学部マンガ学科開設。日下翠『漫画学のススメ』刊行。斎藤環『戦闘美少女の精神分析』刊行。櫻本富雄『戦争とマンガ』刊行。永井均『マンガは哲学する』刊行。鶴岡法斎『マンガロン』刊行。長谷邦夫『漫画の構造学!』刊行。榊野浩一『漫画嫌い』刊行。

2001 「日本マンガ学会」設立。宮原浩二郎、荻野昌弘編『マンガの社会学』刊行。東浩紀『動物化するポストモダン』刊行。夏目房之介『マンガ 世界 戦略』刊行。

2002 岩本茂樹『戦後アメリカニゼーションの原風景』刊行。清水正『「マンガ論」へようこそ』刊行。ジャクリース・ベルント編『マン美研』刊行。

2003 大塚英志『アトム の 命題』刊行。

2004 中野晴行『マンガ産業論』、『マンガ家誕生』刊行。夏目房之介『マンガ学への挑戦』刊行。

2005 秋田孝宏『「コマ」から「フィルム」へ』刊行。翠編『漫画研究への扉』刊行。伊藤剛『テヅカ・イズ・デッド』刊行。大塚英志、大澤信亮『「ジャパニメーション」はなぜ敗れるか』刊行。小野耕世『アメリカン・コミックス大全』刊行。島田一志『コミック・イズ・デッド』刊行。草森紳一、四方田犬彦『アトムと寅さん』刊行。

2006 京都国際マンガミュージアム開館。貸本漫画研究会編『貸本マンガ RETURNS』刊行。永山薫『エロマンガ・スタディーズ』刊行。ヨコタ村上孝之『マンガは欲望する』刊行。